

授業概要

この授業は、保育の質を健康教育学の観点から考究するものです。乳幼児期に多くの時間を割きますが、広く胎児期から学齢期にかけての、子どもの育ちの概論や健康教育学の諸問題を、theory, evidence, experiences, case-study, etc. から眺め、援助の心もちについて検討を加えてゆきます。

また、この授業では、「3年間の保育記録（岩波映像）」を視聴します。子どもは遊びの中で、手指や身体の機能を発達させるだけでなく、皆でより楽しく遊ぶ方法を工夫する力や、想像力、創造力、思考力、自制心、忍耐力、粘り強さ、社会性等をも発達させますが（こうしたことは古くから言われてきましたが、近年では non-cognitive abilities/skills（非認知的能力、社会情動的スキル等の訳語）と総称され、科学的検証も盛んにおこなわれています）、その具象と援助者のかかわりを、実際の映像を通じて観察します。

世界最高水準の小児医療・保健環境の中で生まれ育つ日本の子どもたちを、どうか良い形で学校保健安全領域に渡してほしい。そんな願いを込めて話を進めてゆきます。受講を通じ、子どもの育ちを見つめる確かな眼が涵養され、目線の高い保育者・教育者を目指す一助となれば幸いです。

授業計画

第 1 回	総説
第 2 回	日本の小児医療・保健環境、学校保健との円滑な接続
第 3 回	現代社会と子どもの健康（健康のとらえ方、影響要因、健康生成論）
第 4 回	現代社会と子どもの健康（健康課題の時代推移、運動・スポーツと身体の二極化）
第 5 回	心を育む（ヒトの自己活動、認知）
第 6 回	心を育む（情動と気質、情緒の発達、情緒と社会性との関連）
第 7 回	心を育む（気になる子ども、家庭への理解と対応）
第 8 回	心を育む（もしもの時の心のケア）
第 9 回	遊びの理解（遊びの意義と性格、遊びの発達、見守る側の心もち）
第 10 回	遊びの理解（認知・非認知的能力とライフスキルの関連性、幼児教育の無償化の論点）
第 11 回	レポート作成 ※ 試験答案の方向性を練る時間に充てる。
第 12 回	レポートの返却と省察
第 13 回	生活習慣の獲得過程と援助（特に、安全教育、自助防御能力の醸成に力点を置く予定）
第 14 回	食育 ※ 公開授業は「食育」をとりあげる。
第 15 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、の中での「健康・安全」（改訂のねらい、の理解）
第 16 回	試験

到達目標

下記の理解を深めること。

- ・先ずは表情豊かに子どもの心を受けとめること、そして、吟味された遊びの環境を用意すること。これらのことが、子どもの身体的、精神的、社会的な健康を育む上での土台となる。
- ・幼児期のスキル形成はその後の人的資本形成の基礎をつくる。学びは更なる学びへとつながる。幼児期への投資は重要である。（2点目は Heckman and Masterov, 2007. より。）

履修上の注意

特にありません。

予習・復習

到達目標を念頭に参加（メモ、思考、議論）し、実践に生かすこと。予習は必要ありません。

評価方法

受講態度（20%）、授業内レポート（20%）、学期末試験（60%）

※ 3点のバランスを見て、良い所を積極的に評価します。

テキスト

全てこちらで用意します。